

『メリー・ポピンズ リターンズ』（原題：Mary Poppins Returns）は、2018年のアメリカ合衆国のミュージカル・ファンタジー映画で、1964年の映画『メリー・ポピンズ』の続編。監督をロブ・マーシャル、脚本をデヴィッド・マギー、主役のメリー・ポピンズをエミリー・ブラントが務める。

#### あらすじ

前作から 25 年後の大恐慌時代のロンドン。ジェーン（エミリー・モーティマー）とマイケル（ベン・ウィショー）は大人になり、マイケルは 3 人の子供、ジョン（ナサナエル・サレー）、アナベル（ピクシー・デイヴィーズ（英語版））、ジョージ（ジョエル・ドーソン）の父親となっていた。突如訪れた大きな悲劇に一家は以前のような明るさを失ってしまう。彼らに人生の喜びを取り戻させるため、再びメリー・ポピンズ（エミリー・ブラント）がやってくる。

#### 登場人物

メリー・ポピンズ（英語版） \* 演 - エミリー・ブラント、日本語吹替 - 平原綾香

主人公のナニー。前作から 25 年経過しているが、容姿は全く変わっていない。魔法が使えるがそれを公にはせず、子供たちに対しても「何のことですか」といったようなはぐらかした態度を取る。

ジャック 演 - リン=マニエル・ミランダ、日本語吹替 - 岸祐二

ガス灯の点灯夫。愛用の自転車で朝と夕の 2 回、街灯の消灯と点灯のために街中を回っており、知り合いも多い。前作のバートの弟分で、メリーとも旧知であり魔法が使えることも知っている。役割も前作のバート同様、バンクスの手助けをしたり、メリーと共に歌やダンスを披露したりする。物語の中盤以降、ジェーンといい雰囲気になりつつある。

#### バンクス家

マイケル・バンクス \* 演 - ベン・ウィショー、日本語吹替 - 谷原章介

バンクス家の当主で、アナベル、ジョン、ジョージの父。元は画家を志していたようだが、現在は父親が勤めていたフィデリティ信託銀行でパートタイマーで働いている。家計を切り盛りしていた妻を前年に亡くし、世界恐慌による不況とも相まってかなり苦しい生活をしている模様。そのため自宅を抵当に融資を受けている。

ジェーン・バンクス\* 演 - エミリー・モーティマー、日本語吹替 - 堀内敬子

マイケルの姉で独身。バンクス家の近くのアパートメントに一人で住んでいる。労働組合に所属し、労働者の支援活動をしている傍ら、亡くなった弟嫁に代わってバンクス家のサポートをしている。

アナベル・バンクス 演 - ピクシー・デイヴィーズ（英語版）、日本語吹替 - 植原星空

ジョン・バンクス 演 - ナサナエル・サレー（英語版）、日本語吹替 - 加藤憲史郎

マイケルの長女、長男で双子。年齢の割にしっかりしており、家事の手伝い等をしている。

ジョージ・バンクス 演 - ジョエル・ドーソン、日本語吹替 - 鈴木柊真

マイケルの末子。幼いためメリーの魔法の影響を最も強く受けている。トラブルメーカーであり前作でのマイケルのポジションに近い。

エレン \* 演 - ジュリー・ウォルターズ、日本語吹替 - 木村有里

バンクス家の家政婦で先代からバンクス家に仕える。前作のブリル（料理人）役は登場しておらず、炊事も担当している様子（マイケルから朝食を作るよう命じられているシーンがある）。

## 銀行関係者

ウィリアム・“ウェザーオール”・ウィルキンズ / オオカミ (声) 演・コリン・ファース、日本語吹替・森田順平[7]

フィデリティ信託銀行の頭取で本作のディズニー・ヴィランズ。ミスター・ドース・ジュニアから銀行経営を受け継いでおり、マイケルの上司にあたる。銀行の利益を第一に考え、借金の抵当になっているマイケルの家を取り上げようと画策する。アニメーションパートのオオカミは、ロイヤル・ドルトン・ミュージック・ホールから客の大切なものを盗む盗賊団の首領として描かれる。

物語の終盤、おじのドースに悪行がバレてしまい、銀行をクビになる。風船売りの風船を持ったが、唯一空に浮かばなかった。

グッディング / アナグマ (声) 演・ジェレミー・スウィフト (英語版)、日本語吹替・金子由之

フライ / イタチ (声) 演・コブナ・ホルドブルック＝スミス (英語版)、日本語吹替・小森創介

ウィリアムの命でバンクス家の屋敷の差し押さえを通告に訪れる弁護士。職務に忠実なグッディングに対し、フライは子供たちに対して多少の理解を見せる。アニメーションパートのアナグマとイタチは、オオカミが率いる盗賊団の構成員。

ミスター・ドース・ジュニア \* 演・ディック・ヴァン・ダイク、日本語吹替・宝亀克寿

甥のウィリアムに経営権を譲ったフィデリティ信託銀行の前頭取。物語の最後でマイケルの借金を棒引きにし、ウィリアムを銀行から追放し、頭取に復帰した。前作でダイクが演じた、父親のドース・シニアそのままの風貌である。